

## 〈表現〉 / 〈受容〉 の関係性についての考察

学籍番号 (209352)

氏名 (阪下 真美)

主指導教員 (佐藤賢司)

### 1. 研究の動機と目的

本研究の研究動機には、筆者自身の大東市での小学校教員経験からの気づきがある。筆者は8年間、担任として子供たちと関わってきた。そして、人前で何かをすることに抵抗を感じていたり、表現することに自信が持てなかったりする児童が多いことに危惧を感じた。このような課題の解決に向けて、私たち人間が本来持っている〈表現〉の働きに着目して研究を進めることにした。主な研究方法は、文献講読と授業観察である。鷺田清一、中村雄二郎らの文献より、〈表現〉の定義について考察し、H小学校S教諭の実践を2年間に渡り、観察してきた。(2020年5月～2021年12月)

研究を進めていく中で、それぞれの〈表現〉がより動き出すために必要となる〈場〉が存在していることに気づき、本研究の目的を、〈表現〉がより自然に動き出す〈場〉とは、どのような〈場〉であるのかを考察することとした。

### 2. 〈表現〉が意味するもの

本研究では、文献を基にした考察より、「表現」を暫定的に次のように定義した。

「表現」とは、「人が、他者との関わりを通して互いの世界を更新していく行為そのもの、またそれによって現れる形象のこと」を指し、その行為が、意図的であるかそうでないかに左右されるものではない。また、更新することは、意味が生成していくことと同意であるため、必ずしも何かを「伝える」ことを指すものでもない。一般的には、言語、造形、身体などによる行為として示されるが、「何もしない」ことさえも、意味の生成という点では「表現」といえる。本論では、以上のような「表現」のことを〈表現〉と表記することとした。

また、〈表現〉は、思いや意図があることに左右されるものではないということ、他者などとの関わりによって変容するものであること、「～らしさ」や個性という枠組みの中だけで説明されるものではないということが、確認することができた。

### 3. 〈表現〉がより自然に動き出すために必要な〈受容〉とは

前章での〈表現〉の定義に基づき、実際の学校現場において授業観察を行った。H小学校 S教諭のクラスを主な研究対象として、適宜ビデオ分析を取り入れながら、子供たち一人ひとりや S 教諭のことはもちろんのこと、クラスや学年の様子を細かく観察してきた。本章では、2020年度の授業実践から観察、分析したことを基に考察した。

観察を定期的に続けていく中で、筆者の着眼点は大きく変化した。研究当初は、子供たちの〈表現〉に注目することを研究のねらいとしていたが、その〈表現〉が動き出すために、必要不可欠となる空間、周りの存在があることに気づいた。本研究において、このような空間や存在を〈場〉と表記し、さらには、〈表現〉が自然と動き出す〈場〉のことを、〈受容〉のある〈場〉として考察していくことにした。

### 4. 〈受容〉のある〈場〉としての「教師」の在り方とは

前章では、子供たちの〈表現〉がより自然と動き出すためには、〈受容〉のある〈場〉が欠かせないものであり、特に、教師の在り方が最も大きく関係していることが明らかになった。そして、〈受容〉の〈場〉であるためには、子供たちの〈表現〉を〈受容〉するだけでなく、教師自身の〈表現〉も動き出している必要があることがわかった。さらに、ファシリテーター的役割としての教師や共同探究者についての考察も行った。いずれの立場も「まずは受け容れる」こと、〈受容〉することを大切にしていることが考察より明らかになった。

〈受容〉のある〈場〉としての教師であるためには、「評価すること」「肯定すること」だけに囚われず、子供たちから自然と〈表現〉が出てくるような〈場〉である必要があることが導き出された。

## 5.まとめと今後の展望

本研究では、「〈表現〉 / 〈受容〉の関係性が、互いになくてもならない関係性であるということ」と「〈表現〉が自然と動き出すためには、〈受容〉のある〈場〉としての教師の在り方が関わってくる」ということが明らかになった。〈表現〉や〈受容〉の主体となる人や周りの環境、状況などが異なる限り、現れ出てくる形態はさまざまであるため、どのような教師の在り方が〈受容〉のある〈場〉となるのか、決まった答えや手法はない。しかし、筆者は、決まった答えや手法だけに囚われないことが、〈受容〉のある〈場〉としての教師に必要なものではないかと考えている。

今後は、〈表現〉 / 〈受容〉の関係性についての共通理解を図っていくためにも、筆者自身の日々の実践より子供たちの〈表現〉がより動き出している時とは、どのような場面でどのような実践を展開している時なのか、できるだけ具体的な様子を多くの教師に伝えていく。